

影響力のある100人

米誌「タイム」は、毎年恒例となっている「世界で最も影響力のある100人」の2011年版を発表しました。その中で、今年は福島県南相馬市の桜井市長さんと内科医の菅野さんのお二人が選ばれたことは、率直に喜ぶべきことだと思います。

東日本大震災という未曾有の災害に際し、被災地の人々が示した、抑制のきいた、忍耐強い姿は、多くの人々に感銘を与えています。

また、我が身を省みず、被災者のために頑張っている方も多くいらっしゃいます。菅野医師もそのお一人であり、そうした存在は、我々にとっても大きな誇りとなっています。

こうした中、南相馬市の桜井市長の行動には、これまでの首長のイメージを変えるような、非常に熱いものがありました。恐らく、市民の命を守らなければならないという、市長としての責任感がそうさせたのではないかと感じています。

福島第一原発事故の直後、3月15日に原発から20～30^{キロ}圏内に屋内待避指示が出されました。屋内待避の指示自体は、市民の安全確保上必要なものであったと思いますが、こうした指示を出す場合、待避期間が数時間、数日ならともかく、長期間にわたる場合には対象地域への食料等の確保に万全を期さなければなりません。しかし、今回はそうした対策が十分でなかったこともあり、桜井市長は「南相馬市は食料、ガソリンが不足し、市民は兵糧攻め的な状況に置かれている」と支援を訴えると共に「政府や東京電力からの情報が不足している」と厳しい批判を重ねました。私もテレビで市長の発言の様子を拝見し、その迫りに圧倒される思いでした。

また、南相馬市の窮状を動画投稿サイト「ユーチューブ」を通して世界中に発信し、大きな反響を呼びましたが、市長自らが積極的に顔を見せ、直接情報発信する姿に新鮮なものを感じましたし、その影響は非常に大きかったといえ

ます。

日本のリーダーは、周りに対する配慮、更には言質を取られたくないとか、批判を避けたいという思いから、とにかく慎重な物言いをする人が多いと思います。この結果、文節としては正しいかも知れないが真意が伝わらない、スピード感を感じさせない状況がしばしば起こります。これに対して、桜井市長は、現場の責任者としての明確なメッセージを発信し続けました。これが、国民の目線を引きつけたし、政府を動かす原動力になったに違いありません。

桜井市長は「私は、市の現状と市民の生の声を伝えただけであり、選ばれるべきは南相馬市民」であると述べておられますが、市民の声を日本政府に対して、あらゆる手段を講じて直球で伝えた功績は、やはり大きかったと思います。

(塾頭 吉田 洋一)